

浜矩子さん来る -ATIS 例会（第388回 平成24年9月21日開催）-

ATIS の大ヒットです。ATIS は、知財関連&技術情報関連の子会社の集まりですが、そうしたところに、浜矩子さんが来てくれたのです。

浜さんは、いっぱい本を書いていますし、TBS の時事放談（日曜の朝）に、よく出演しています。そんな有名な浜矩子さんが ATIS で講演するのです。

9月21日、聞いて参りました。

浜さん本人にお会いするのは、初めてです。出会って初めての印象は、「なんだ、怖くないじゃん」でした。テレビで見る浜さん、本の表紙に載せられる浜さんの写真から受ける印象と大きく異なります。むしろ、かわいい人という印象でした。



ATIS 例会で講演する浜矩子さん

75分の講演が始まりました。

イントロの入り方、主題の提示、その解説、意外な展開、ユーモア、すべて、凄かったですね。パワーポイントなどのアシストは、まったくなし。言葉だけで、「浜矩子ワールド」に引き込んでいきます。

論理展開も、まったく無駄なし、すべてが関連。引き出しも豊富、何でもこいという感じでした。

とくに印象深かったのは、キャッチフレーズの作り方の上手さです。

<中国は天才子役><政治は思惑、経済は力学><ECB の ECB 化><「引籠り」と「切り刻み」><国富論を超えて:「僕富論」「君富論」>。みんなピッタリです。

たとえば、<中国は天才子役>: 驚異の経済成長を遂げた中国を表した言葉です。「天才子役」は、ものすごい才能と実力がありますが、子役を経た後の、「現在、大人の役者になれるかどうかの瀬戸際でもがき苦しんでいる」「天才子役の将来は多くの場合、没落が待っている」という意味が含まれています。

<ECB の ECB 化>: 前の ECB は European Central Bank、後ろの ECB は「European **Catastrophic** Bank」なんともさびの効いた皮肉。債務国の国債を無制限に引き取るというのは、中央銀行の使命を放棄した破滅的行為である。ユーロの信頼性を大きく揺るがし、ユーロ崩壊に繋がるという主張です。なるほどなあ。

そうした解説がつぎつぎに出てきます。そして最後に、浜さんは、参加者に呼びかけました。『講演が終わったら、「君富論」を實踐して欲しい』というのです。「君富論」は、グローバル社会を成功に導く唯一の方法であると、浜さんが提案しているものです。

そして質問時間、15分。「君富論」に関する質疑応答があり、最初は否定的だった意見が、だんだんとまとまってきます。会場のみんなで達した結論は、「日本は『お人よし』でいいんだ。『お人よし』をずっと続けるべきだ。それが日本の存在感を浮き上がらせるいい方法なんだ」ということでした。

浜さんは、懇親会にも出席してくれました。

浜さんと、たくさんのお話をしました。グローバルと国家の存在は矛盾すること、WTO の互惠の精神と現実、日本の政治の状況、日本は単一民族ではない、などなど。

とても充実した一日でした。

注)「君富論」については、浜矩子「誰も書かなかった 世界経済の真実」アスコム、をみていただきたいと思えます。この本の第5章に書かれてあることの内容と同じです。



講師の先生を囲んだ懇親会での一コマ

(向かって中央左側が(株)日本アイアール 矢間伸次社長、右側が同志社大学 浜矩子教授)